

ICTを活用した「特別の教科 道徳」の実践

～「考え、議論する道徳」への転換に向けて～

清水 祥 平 (文教大学教育研究所客員研究員)

今 田 晃 一 (文教大学教育学部)

Practice of 'Moral Education as Special Subject' Using ICT :
Toward Transition to 'Moral Education for Ideas and Discussion'

SHIMIZU SHOUHEI, IMADA KOICHI

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

(Faculty of Education, Bunkyo University)

要 旨

平成27年3月に、学校教育法施行規則及び小・中学校学習指導要領の一部改正が行われ、「特別の教科 道徳」が位置づけられた。そこで本研究では、ICTを活用した「特別の教科 道徳」の実践として、NHK for Schoolの映像教材『ココロ部』、全14話を用いた授業実践を行い、授業評価を行った。結果、本実践は児童にとって主体的・対話的な学びの場となり、ICTを活用した考え、議論する道徳の授業づくりへの留意点を見出すことができた。

1. はじめに

(1) 道徳の「特別の教科」化の経緯

平成12年12月22日、教育改革国民会議は「教育改革国民会議報告～教育を変える17の提案～」¹⁾を示した。その中で、人間性豊かな日本人を育成するため、「学校は道徳を教えることをためらわない」とし、小学校に「道徳」、中学校に「人間科」、高校に「人生科」などの教科を設けることを提言した。

平成18年に、内閣に設置された教育再生会議は、平成19年12月25日の第三次報告「社会総がかりで教育再生を～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する～」²⁾において七つの柱を示した。その二つ目の柱「徳育と体育で、健全な子供を育てる～子供たちに感動を与える教育を～」の(1)に「徳育を「教科」とし、感動を与える教科書を作る」ことを示した。さらに平成20年1月31日の「社会総がかりで教育再生を

(最終報告)～教育再生の実効性の担保のために～」³⁾の中で、「徳育を『教科』として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身につけさせる」ことを提言した。

平成25年2月26日、教育改革を内閣の最重要課題の一つと位置付ける第二次安倍内閣に設置された教育再生実行会議は、「いじめの問題等への対応について(第一次提言)」⁴⁾をまとめた。その中で、いじめに起因する痛ましい事案から子供たちを救うために「心と体の調和のとれた人間の育成に社会全体で取り組む」ことを掲げ、そのために「道徳を新たな枠組みによって教科化し、人間性に深く迫る教育を行う」ことを第一に示した。

この提言を踏まえ、文部科学省は平成25年3月、「道徳教育の充実に関する懇談会」を設置した。これまでの成果や課題を踏まえ、10回に渡る審議を重ね、同年12月26日、「今

後の道德教育の改善・充実方策について（報告）～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～⁵⁾を出した。この報告では、「心のノート」の全面改訂等の学校教育における道德教育の改善・充実方策だけでなく、家庭や地域における道德教育の重要性、社会全体での意識の向上や取組の充実の必要性についても述べられた。そして、道德教育の改善・充実のための方策の一つとして、道德の時間を、教育課程上「特別の教科 道德」（仮称）として位置付け、道德教育の改善・充実を図ることが提言された。

中央教育審議会は、文部科学大臣から平成26年2月に「道德に係る教育課程の改善等について」諮問を受け、「道德教育の充実に関する懇談会」の提言も踏まえつつ、審議を行った。10回に渡る検討の上、「道德に係る教育課程の改善等について（答申）」⁶⁾を提出した。この中で、道德教育のねらいを実現するための教育課程の改善のため、「道德の時間を「特別の教科 道德」（仮称）として位置づける」ことをはじめとする、6点の改善方策が示された。

そして平成27年3月に「特別の教科 道德」が学校教育法施行規則第50条に明記された。これにより、学習指導要領の一部が改正され、「特別の教科 道德」の目標、内容、指導計画の作成及び内容の取扱い等が示された⁷⁾。小学校においては平成30年度から、中学校においては平成31年度から前面実施され、平成27年度から移行期間に入ることが通知された⁸⁾。

（2）道德教育の現状と課題

戦後、道德教育は、学校の教育活動全体を通じて行うという方針の下、昭和33年告示の学習指導要領において小中学校で週1単位時間の「道德の時間」が設置され、現行の学習指導要領においても、道德教育の「要」としての役割を果たしている。

しかし、「子どもの徳育に関する懇談会」

による報告「子どもの徳育の充実に向けた在り方について」⁹⁾の「2.現代の子ども の成長と徳育をめぐる今日的課題」には、現代の子ども の成長と徳育をめぐる課題について次のように述べられている。

現在の日本の若者・子どもたちには、他者への思いやりの心や迷惑をかけないという気持ち、生命尊重・人権尊重の心、正義感や遵法精神の低下や、基本的な生活習慣の乱れ、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されている。社会を震撼させるような、少年が関与する事件の報道に触れ、子どもたちの規範意識について不安を感じる人も多い。

また、平成24年に文部科学省が実施した「道德教育実施状況調査」¹⁰⁾から、授業方法が読み物資料に偏っていること、道德の時間におけるICTの利用について指導方法の研究が進んでいないこと、「考える道德への転換に向けたワーキンググループ資料」¹¹⁾から、学年が上がるにつれて道德の授業を「楽しい・ためになる」と感じている児童生徒の割合が低下していることなどの課題が読み取れる。

さらに「道德教育の充実に関する懇談会」は、「今後の道德教育の改善・充実方策について（報告）」¹²⁾の中で、現在の道德教育の課題として次のように指摘している。

- ・歴史的経緯に影響され、いまだに道德教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- ・道德教育の目指す理念が関係者に共有されていない。
- ・教員の指導力が十分でなく、道德の時間に何を学んだか印象に残るものになっていない。
- ・他教科に比べて軽んじられ、道德の時間が、実際には他の教科に振り替えられて

いることもあるのではないか。

これらの課題も踏まえ、「特別の教科 道徳」は設置されることとなった。道徳の教科化は、年間35単位時間が確実に確保されるという量的確保と、子供たちが道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えてその自覚を深めるといった質的転換を目指している¹²⁾。

佐藤¹³⁾は、道徳科が全面実施される時、学校教育として行う道徳問題に対して主体的・積極的に関わり教育方法の充実を図っていく必要があり、多面的・多角的なコミュニケーションのあり方をベースにしながら、自己の道徳的価値を深めて行く実践を深化させていかねばならない、としている。

また、学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」第4章第2節3(4)「道徳科に生かす指導方法の工夫」には、教師がコンピュータを含む多様な機器の活用方法を身に付けておくことや、教材を提示する方法として、ビデオなどの映像も効果が高められることが記されている¹⁴⁾。

以上を踏まえ本研究では、ICTを活用した「特別の教科 道徳」の在り方を検討することを目的とする。

2. 研究

(1) NHK for School 「ココロ部」

「NHK for School」のホームページにある番組紹介では、「ココロ部」¹⁵⁾について下記のように紹介されている。

「ココロ部」は、小学校5・6年生、中学生の子共たちに、考える力とコミュニケーション力、“道徳力”を楽しんで身につけてもらう番組です。人は行きたいといろいろな“ピンチ”にあいます。「あっちも大事だけど、こっちも大事」「自分の気持を優先するか、他人の気持を優先するか、それとも…」

そんな時どうすれば良いか、じっくり

話合うことで、自分の生き方について考えていくのが、架空の部活動『ココロ部』です。

番組の最後は、結論が出ないまま終わります。決まった正解はありません。自分ならどうするか？学校や家で話し合いながら、ぜひ考えてみてください。

オープンエンドの構成で、複数の選択肢から「自分ならどうするか」について考えることができるように、構成された番組である。ネオ・デジタルネイティブと呼ばれる児童にとって、動画は身近なものであり、その有用性についての研究も進められている¹⁶⁾。

現在、10分のドラマ仕立ての番組がテレビで放送されている。また、番組ホームページでストリーミング配信されている。この番組ホームページには指導をする教員向けに各番組に対応した簡単な指導の流れを示した「授業プラン」や児童用のワークシート、黒板に掲示できる場面絵の画像データなどが用意されている。

(2) モラルジレンマ授業

「ココロ部」のように、ジレンマに陥る登場人物が、二つの選択肢のうちどちらを選ぶべきかを議論させる道徳授業の手法は、荒木¹⁷⁾によって提唱され、「モラルジレンマ」と呼ばれる。コールバーグの道徳性発達理論に基づく、人物の葛藤を扱う授業で、「ハインツのジレンマ」¹⁸⁾という物語が有名である。モラルジレンマの資料は①登場人物が二つの行為(=道徳的価値)の狭間で悩む葛藤場面が描かれていること。②結末が描かれず、葛藤場面のまま話が終わるオープンエンド形式であること。の二点が大きな特徴である。

モラルジレンマについては、宇佐美¹⁹⁾が、「ディレンマにおいて、選択肢のどちらかを『全か無か』で選ぶというのは、低劣な思考である」と批判している。また、藤川²⁰⁾も『『考え、議論する道徳』で扱われる状況は、

ジレンマ状況のように人物が追い込まれている状況ではなく、関係者が問題に気づきはじめた状況を中心とすべきである」と批判している。

その一方で加藤²¹⁾は宇佐美の批判に対して、モラルジレンマ授業の授業実践を通して、「自律的な判断をする子どもの育成」という視点でモラルジレンマ資料の有用性を示している。

これらを踏まえ、①「学習指導要領解説特別の教科道徳編」で教材の提示方法として例示されている映像教材。②考え、議論することに効果的であると考えられるモラルジレンマ教材。③教材を自作する必要がなく、誰もが抵抗なく授業で扱いやすい教材。の三点を併せ持つNHK for School「ココロ部」を題材にした。

(3) 授業実践

埼玉県越谷市立A小学校の第6学年を対象に「ココロ部」の映像資料を題材に授業実践を行った。尚、平成29年4月から9月にかけて現在NHK for School「ココロ部」のホームページに掲載されている14話全てを使って14回の授業を行った。授業の展開については、同ホームページに掲載されている「授業プラン」に沿って進めた。また、児童が授業中に使用するワークシートに関しても同様にホームページからダウンロードしたものを利用した。

そして、授業後に毎回、質問紙によるアンケートを実施し学習者が授業を5段階で評価した。授業者の評価は授業中の児童の反応やワークシートへの記入をもとに、自己評価をした。

(4) 授業評価

授業実践について、表題を「NHK for School「ココロ部」全14話をういた授業実践評価表」と記し、表1にまとめた。「内容

項目」は、NHK for School「ココロ部」のホームページに小学生・中学生それぞれに向けた内容項目対応表があり、14話それぞれが学習指導要領に示されている内容項目A1からD22のいずれに当てはまるかが記されている。題材によって2～4つの項目が該当するよう記されているが、表には筆者が授業をするにあたり重点をおいた内容項目2つを記した。

「議論の柱」は、授業で児童が話し合うメインとなる議題、主発問を簡潔に記した。

「授業評価」は、児童と教師双方の評価を「◎○△」の3段階評価で記した。児童による評価については、まず図1にある5項目についてアンケートを実施し、各質問項目に対して「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階で振り返らせた。

| | |
|---|--------------------------------|
| ① | 映像は良かった。 |
| ② | すすんで考えることができた。 |
| ③ | 意見を聞いたり、話し合ったりすることで自分の考えが深まった。 |
| ④ | 「本時の内容項目」について、よく考えることができた。 |
| ⑤ | 総合評価。 |

図1. 児童アンケートの質問項目

全14話のアンケート結果を5つの各質問項目について、平均と標準偏差を表2に示す。

④「本時の内容項目」は、例えば「おくれた客」の時には④「ルールを守ることの大切さと、人にやさしくすること」について、よく考えることができた、のように毎時間のめあてに合わせて質問をした。

⑤「総合評価」を平均し、4.65以上のものを◎、4.50以上のものを○、それ以下のものを△として「授業評価」の「児童」の欄に記した。

教師による評価については、ワークシートへの記入・発問に対する児童の反応・発表の

表1. NHK for School「ココロ部」全14話を活用した授業実践評価表

| タイトル 内容項目 | | 議論の柱 | | | 発展・改善の可能性 |
|------------------------|--------------------------|------------------------|----|---|--|
| 1 | ぼくらの村の未来 | 道路を建設するか、それとも自然を守るか | | | ○ |
| | C17 (伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する心) | 授業評価 | 児童 | △ | ・理科で生物の共生などの学習をする時とタイミングを合わせて学習効果を上げる。 ・新聞やニュースで報じられる環境問題とリンクさせる |
| D20 (自然愛護) | 教師 | | ○ | | |
| 2 | 海を渡るざるそば | 外国に合わせたメニューでそば店を出すべきか | | | ○ |
| | C17 (伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する心) | 授業評価 | 児童 | △ | ・「カリフォルニアロール」など、実際にある物を見せて話し合いを深める。 ・日本に異文化が入ってくる場合を想定して考えさせる。 |
| C18 (国際理解・国際親善) | 教師 | | △ | | |
| 3 | ダンスパートナーはだれ | 旧知の相手と新しい相手、どちらと大会に出るか | | | ○ |
| | A5 (希望・勇気・努力・強い意志) | 授業評価 | 児童 | ○ | ・ネガティブな意見も温かく受け止めてもらえるという学級の雰囲気を醸成しておく。 ・選ばなかった相手に対して、どう声をかけるか考えさせる。 |
| B10 (友情・信頼) | 教師 | | ○ | | |
| 4 | みんなの自由な公園 | どんなルールならみんなが気持ちよく使えるか | | | ○ |
| | A1 (自由・自立・責任) | 授業評価 | 児童 | ○ | ・個々の問題に話題が偏らないように発問やWSの構成を工夫する必要がある。 ・学校のそばにある公園のルールについて議論する。 |
| B11 (相互理解・寛容) | 教師 | | △ | | |
| 5 | こまったプレゼント | もらったプレゼントを店頭飾るべきかどうか | | | ◎ |
| | B10 (友情・信頼) | 授業評価 | 児童 | △ | ・友達の希望する場所に飾らない場合、どう断るか考えさせる。 ・洋菓子店のイメージに合う天狗のデザインをICTを活用して作成する。 |
| B7 (親切・思いやり) | 教師 | | ◎ | | |
| 6 | 最後のリレー | メンバーの怪我を監督に伝えるかどうか | | | ◎ |
| | B10 (友情・信頼) | 授業評価 | 児童 | ○ | ・自分が怪我をしたメンバーだったら、正直に告げるか怪我を隠して出場するか考えさせる。 ・監督に伝える場合、怪我をした仲間へのフォローを考える。 |
| C16 (よりよい学校生活や集団生活の充実) | 教師 | | ◎ | | |
| 7 | おくれたきた客 | 閉館後に客を美術館に入れても良いかどうか | | | ◎ |
| | C12 (規則の尊重) | 授業評価 | 児童 | ○ | ・自分が客の立場だったら、入館を諦めるか、警備員にお願いをするか考えさせる。 ・入館させる以外に母子が気分良く帰れる方法を考える。 |
| B7 (親切・思いやり) | 教師 | | ◎ | | |

| タイトル 内容項目 | | 議論の柱 | | | 発展・改善の可能性 |
|--------------------|--------------------|----------------------|----|---|--|
| 8 | みんなに合わせる”友情” | 仲間はずれをやめるよう友達に言うかどうか | | | ◎ |
| | B10 (友情・信頼) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・情報モラルの年間指導計画に組み込み、系統的に指導をする。 |
| B7 (親切・思いやり) | 教師 | | ◎ | | |
| 9 | だれを先に乗せる？ | 5人の中から車に乗せる3人を選ぶ | | | ◎ |
| | B7 (親切・思いやり) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・3人ではなく、1人しか選べないとしたら、どうするか。 ・乗せない2人に対して、どう声をかけるか考えさせる。 |
| C13 (公正・公平・社会正義) | 教師 | | ◎ | | |
| 10 | 進路のゆくえ | 自分の夢と両親の勧め、どちらを選ぶか | | | ○ |
| | B11 (相互理解・寛容) | 授業評価 | 児童 | ○ | ・反抗期である小学校高学年・中学生に、親に対する寛容さや相互理解をどう考えさせるかが課題である。 |
| A5 (希望・勇気・努力・強い意志) | 教師 | | △ | | |
| 11 | 外国から来た転校生 | ピアスを付けた転校生を許すかどうか | | | △ |
| | C18 (国際理解・国際親善) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・学級・学校に外国籍の児童がいる場合に配慮が必要である。 ・日本と違う諸外国の文化について調べ学習をしてみる。 |
| C12 (規則の尊重) | 教師 | | ○ | | |
| 12 | 白球のライバル | ライバルにフォームを指摘するか言わないか | | | ○ |
| | A5 (希望・勇気・努力・強い意志) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・「フォームを指摘してライバルに負けているようではプロで通用しない」という手厳しい意見もあった。 ・「正々堂々と勝負したい」という意見が多数を占めた。 |
| B10 (友情・信頼) | 教師 | | ○ | | |
| 13 | カメラマンの選択 | 地域のために働くか、自分の夢を追うか | | | ◎ |
| | C14 (勤労・公共の精神) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・どちらを選ぶにしても、もう一方に対してどのようなフォローをするかを考えさせる。 ・キャリア教育の観点を取り入れる。 |
| B8 (感謝) | 教師 | | ○ | | |
| 14 | まほうのスケート靴 | 契約の靴と高性能の靴どちらで試合に出るか | | | ○ |
| | A5 (希望・勇気・努力・強い意志) | 授業評価 | 児童 | ◎ | ・3「ダンスパートナーはだれと？」と似たテーマであるため、両方見る必要はない。児童の実態等に応じて教師が使い分ける。 |
| C12 (規則の尊重) | 教師 | | ◎ | | |

表2. アンケートによる児童の授業評価

| | ①映像はよかった | | ②すすんで考えることができた | | ③意見を聞いたり、話し合ったりすることについて、よく考えることができた | | ④1本時の内容項目について、よく考えることができた | | ⑤総合評価 | |
|--------------|----------|------|----------------|------|-------------------------------------|------|---------------------------|------|-------|------|
| | 平均 | S.D. | 平均 | S.D. | 平均 | S.D. | 平均 | S.D. | 平均 | S.D. |
| 1 ぼくらの村の未来 | 4.52 | 0.81 | 4.34 | 0.76 | 4.45 | 0.62 | 4.28 | 0.78 | 4.45 | 0.67 |
| 2 海を渡るざるそば | 4.52 | 0.77 | 4.28 | 0.69 | 4.10 | 0.76 | 4.38 | 0.89 | 4.28 | 0.69 |
| 3 ダンスパートナー | 4.63 | 0.60 | 4.43 | 0.80 | 4.40 | 0.84 | 4.40 | 1.05 | 4.63 | 0.60 |
| 4 みんなの自由な公園 | 4.60 | 0.71 | 4.47 | 0.76 | 4.33 | 0.75 | 4.43 | 1.12 | 4.53 | 0.72 |
| 5 こまったプレゼント | 4.44 | 0.79 | 4.44 | 0.63 | 4.33 | 0.61 | 4.44 | 0.79 | 4.48 | 0.63 |
| 6 最後のリレー | 4.70 | 0.74 | 4.43 | 0.72 | 4.50 | 0.76 | 4.63 | 0.66 | 4.63 | 0.60 |
| 7 おくれた客 | 4.80 | 0.54 | 4.77 | 0.62 | 4.67 | 0.60 | 4.73 | 0.63 | 4.57 | 0.72 |
| 8 みんなに合わせる | 4.77 | 0.62 | 4.67 | 0.60 | 4.53 | 0.72 | 4.80 | 0.48 | 4.73 | 0.51 |
| 9 だれを先に乗せる? | 4.76 | 0.62 | 4.52 | 0.72 | 4.62 | 0.67 | 4.62 | 0.67 | 4.66 | 0.66 |
| 10 進路のゆえ | 4.72 | 0.64 | 4.52 | 0.86 | 4.62 | 0.61 | 4.52 | 0.90 | 4.62 | 0.67 |
| 11 外国から来た転校生 | 4.77 | 0.62 | 4.60 | 0.61 | 4.50 | 0.72 | 4.63 | 0.66 | 4.73 | 0.57 |
| 12 白球のライバル | 4.70 | 0.69 | 4.60 | 0.66 | 4.67 | 0.60 | 4.57 | 0.72 | 4.70 | 0.59 |
| 13 カメラマンの選択 | 4.73 | 0.57 | 4.57 | 0.67 | 4.63 | 0.60 | 4.70 | 0.53 | 4.67 | 0.60 |
| 14 魔法のスケート靴 | 4.85 | 0.46 | 4.69 | 0.61 | 4.65 | 0.62 | 4.65 | 0.73 | 4.73 | 0.52 |

様子などから総合的に判断して「教師」の欄に記した。さらに、具体的な児童の反応や授業者としての手応えを隣の欄に記した。

「発展・改善の可能性」は、全14話を授業で扱った者として、次に授業を実践したらホームページに掲載されている「授業プラン」に沿うだけでなく、児童の実態や状況に応じてどのような工夫や改善が考えられるかについて記した。また、発展・改善の可能性が大いにあるものに◎、いくつかあるものに○、あまり余地のないものに△を記した。

3. 考察

全14話の実践を通して、意見が割れた題材の方が、議論が活性化する傾向があると感じた。また、学習者である児童の授業評価も高い傾向が見られた。反対に第4話「みんなの自由な公園」のように選択肢が提示されず、「どうすればよいか」漠然と問われると、考えが深まりにくかった。

例えば、第5話「こまったプレゼント」のように2つの選択肢からどちらかを選ぶだけでなく、折衷案や第3の案を考える余地のある題材だと、議論が活性化する傾向が見られた。

阿部ら²²⁾は「ココロ部」の授業実践を通

して熟議民主主義を背景とした道徳授業の教育方法に検討し、映画「インサイドヘッド」をモチーフに、児童が脳内物質になって議論するという設定を工夫している。今回、筆者らはそのような設定は特に設けずに授業実践を行ったが、授業後のアンケートによる児童の授業評価は概ね好評であった。また、授業者は、児童は白熱した意見交換、議論をしていると感じた。

図2は、第1回「ぼくらの村の未来」を用いて授業を実施した日の児童の日記である。ここから「ココロ部」を用いた道徳の授業が児童の意欲を高めていることがわかる。

| |
|--|
| 今日、道徳の授業がすごく楽しかったです！ 2つの意見を比べるので、どちらにするか迷いました。でもやっぱり賛成で、命を大切にします！また、こういう道徳の授業をやってほしいです！ |
|--|

図2. 「ぼくらの村の未来」実施日の、児童Aの日記の一部

議論が深まりにくかったり、意見が一方に偏って考えが揺さぶられなかったりした場合、NHK for School「ココロ部」のホームページに掲載されている「みんなの意見」のコーナーに掲載されている意見を紹介することで考えの視点を児童に提供することができた。

モラルジレンマ教材は、オープンエンドで

あるため、2つの価値について、自分がどちらを選ぶかは各自の判断に委ねられる。しかし、ただ選ぶだけでなく、選ばなかった方へのフォローをどうするかについて児童はよく考えることができた。例えば第9話「だれを先に乗せる？」では5人の中から車に乗せる3人を決める。5人の事情をよく考えた上で自分なりの判断基準から3人を選ぶが、その際に選ばなかった2人に対してどのようなフォロー（言葉がけなど）をするかが大切である。実生活においても、自分が2つの選択肢からどちらか一方を選んだ時に、選ばなかったもう一方に対してどのようにフォローをするかということは重要な問題である。こういった社会性を身に付ける学習としても意義があった。

読み物教材では、国語のように細かい文章表現を読み取る作業に時間が取られたり、文章読解力の個人差から状況を学級全体で共有しにくかったりする傾向がある。また、それを解消するために教師が状況を細かく説明することに時間が取られるといった問題があった。映像教材はこの問題を解決し、資料提示から議論へスムーズに入ることができるという手応えを感じた。

4. まとめと今後の課題

「特別の教科 道徳」は、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」である。モラルジレンマの映像教材は、児童が主体的に授業に参加し、道徳的価値について深く考えることができるものであることが確認できた。

平成29年3月に告示された次期学習指導要領²³⁾では、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の三本柱のもと、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」が大きく掲げられた。特に「どのように学ぶか」については、「主体的・対話

的で深い学び」の視点に立った授業改善が求められている。

「主体的・対話的で深い学び」では、「一人ではできない。でも先生に教えてもらわなくても、みんなとならできる」。ヴィゴツキーの発達最近接領域（ZPD: Zone of Proximal Development）²⁴⁾の考え方を重視したい。道徳の時間では、従来からグループや学級全体で話し合う学習形態をとることが多いが、一人では考えが及ばなかったが友達と話し合うことで考えの幅が広がったり深まったりした、はじめ一人で考えていたことが友達の意見を聞いて変わった、というような思いを少しずつでも経験させ、対話によって学びが深まることの良さを実感させたい。

本研究では、ココロ部全14話全てを用いて授業を実践し、授業者及び学習者による授業評価をまとめた。そこから、映像教材は道徳の授業を実施する場合に大変有効であることが明らかになった。

今後は、学習者の実態に応じて授業者が工夫を加えることで教材を自分なりにカスタマイズし、オリジナリティあふれる授業を展開したい。更に、タブレット端末等のICTも活用することで、児童の考えや学級における議論がより深まったり広がったりできるような発展的な学習についても検討していきたい。

【文献及び注】

- 1) 教育改革国民会議「教育改革国民会議報告～教育を変える17の提案～」
<http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/houkoku/1222report.html> (2000)
(参照2017.9.20)
- 2) 教育再生会議「社会総がかりで教育再生を～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する～第三次報告」(2007)
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyoui>

- ku/houkoku.html (参照2017.9.20)
- 3) 教育再生会議「社会総がかりで教育再生を(最終報告)～教育再生の実効性の担保のために～」(2008)
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouiku/houkoku.html> (参照2017.9.20)
- 4) 教育再生実行会議「いじめの問題等への対応について(第一次提言)」(2013)
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/teigen.html> (参照2017.9.20)
- 5) 道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」(2013)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/1343013.htm (参照2017.9.20)
- 6) 中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について(答申)」(2014)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1352890.htm (参照2017.9.20)
- 7) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(2015)
- 8) 文部科学省「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定, 小学校学習指導要領の一部を改正する告示, 中学校学習指導要領の一部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示の公示並びに移行措置等について(通知)」26文科初第1339号, (2015)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1360256.htm (参照2017.9.20)
- 9) 子どもの徳育に関する懇談会「子どもの徳育の充実に向けた在り方について(報告)」(2009)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm (参照2017.9.20)
- 10) 文部科学省「道徳教育実施状況調査」(2012)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/ (参照2017.9.20)
- 11) 教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ第4回配布資料「資料4 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ議論にまとめ案についての参考資料」, p.12 (2016)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/078/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/09/15/1377233_3.pdf (参照2017.9.20)
- 12) 道徳教育の充実に関する懇談会, 前掲書, pp.2-3
- 13) 佐藤環「特別の教科道徳」の政策的動向と課題」茨城大学教育学部附属教育実践総合センター『茨城大学教育実践研究』, 35, pp.359-367 (2016)
- 14) 文部科学省, 前掲書 p.81 (2015)
- 15) NHK for School「ココロ部」
<http://www.nhk.or.jp/doutoku/kokorobu/> (参照2017.9.20)
- 16) 市河大・清水祥平・今田晃一「Webサイト版「情報モラル教材」の検討～デジタル版補助教材作成上の留意点～」文教大学大学院教育学研究科『教育研究ジャーナル』, Vol.9, No.1, pp.13-16 (2016)
- 17) 荒木紀幸「道徳性発達研究会が開発したモラルジレンマ資料」『道徳性発達研究』, 第5巻, 第1号, pp.1-19 (2010)
- 18) ハインツという貧しい男が、妻の病気を治すのに必要である高額な薬を手に入れるため、薬局に盗みに入るべきか否かを問う短い物語。
- 19) 宇佐美寛『「道徳」授業における言葉と思考ー「ジレンマ」授業批判』, 明治図書 (1994)
- 20) 藤川大祐「道徳授業における二値的課題

- の扱いに関する批判的検討ー「考え、議論する道徳」に資する教材開発の構想ー」
千葉大学教育学部授業実践開発研究室
『授業実践開発研究』 10, pp.1-8 (2017)
- 21) 加藤裕樹「モラルジレンマ教材を用いた道徳の授業づくりー自律的に判断する子どもの育成の視点でー」山形大学大学院教育実践研究科『教育実践研究科年報』, 5, pp.90-97 (2014)
- 22) 阿部学・市川秀之・土田雄一・藤川大祐「熟議民主主義を背景とした道徳授業の教育方法についての検討」, 千葉大学教育学部授業実践開発研究室, 『授業実践開発研究』 9, pp.89-98 (2016)
- 23) 文部科学省「小学校学習指導要領」(2017)
- 24) 最近接発達領域 (ZPD), 大阪大学コミュニケーションデザインセンター,
<http://cscd.osaka.ac.jp/user/rosaldo/090113ZPD.html> (参照2017.9.20)